

国語教育専攻用

国語 (90分 200点)

注意事項

- ① 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
  - ② 解答にはH BまたはBの黒鉛筆（シャープペンシルはH BまたはBの芯であれば使用可）を使用しなさい。
  - ③ マークシートの解答用紙には、氏名、受験番号、科目を記入する欄と受験番号、解答科目をマークする欄があります。
  - ④ 解答方法は、マーク式（解答番号を選択する方式）です。マークシートの解答用紙にマークしなさい。
- 例えば、**10**と表示のある問いに対して③と解答する場合は、下の（例）のように**解答番号10の解答欄の③**にマークしなさい。
- ⑤ 試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を高くあげて監督者に知らせなさい。

（例）

解答番号	解 答 欄
10	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩

※ 問題に使用した文章の表記は、一部改めた場合がある。

国

語

□ 次の文章は『とりかへばや物語』の一節で、女兒が若君として、男兒が姫君として、それぞれ成人する前後を描いた場面である。これを読んで、後の問いに答えなさい。

かかる御才、容貌かたちすぐれたまへること、やうやう世にきこえて、(注1)内、春宮にも、さばかり何事にもすぐれた **a**なるを今まで **A**殿上などもせさせず交まじじろはせぬことと、つきせずゆかしがらせたまひて、大將殿にもたびたび御気色 **I**あれど、いとど胸つぶれ、あさましくかたはらいたければ、いまだ **A**いはけなきさまを奏して取り出でたまはぬを、童姿目馴おらほらさ **b**じとするならむとて、冠かうぶりをさへ押し賜はらせて、とくとく大人びさせて **x**参らすべきさまにのみたびたび御気色あるにさへ、いかに聞こえて参ら **II**せぬやうあるべきならねば、さりとては、たださらばあるにまかせてあるばかり、これも前の世のことなら **c**めば、(注2)かかる筋すぢにてもおのおのさてもものしたまふべき契りこそは、と **イ**ひたぶるに思おぼしなりて、今年は、御裳着、御元服、我も我もといそぎたまふ。

その日になりて、この殿の御しつらひ世の常ならずみきたてて、姫君渡したてまつりたまふ。(注3)東の上も渡りたまへり。(注4)大殿ぞ御腰は結ひたまふ。(注5)疎々うととしからぬはねぢけたれど、さすがに **ウ**かたはらいたく思すなるべし。かかる御ことどもを聞くよそ人は、思ひ寄るべきことならねば、ただ、若君姫君を思ひ違へ聞きひがめたりけるとのみぞ心得ける。まれまれ詳しく知りたる人は、またいかでかうち出づべきことのさまならねば、なべて世に知る人なきぞいとよかりける。

若君の(注6)御引き入れは、殿の御兄の右大臣殿ぞしたまふ。(注7)御上げまさりのうつくしき、かねて見きこえ **d**しことなれど、いともて離れ、世になき容貌のしたまへるを、引き入れの大臣のめでたてまつりたまふさま、ことわりなり。この大臣は姫君のかぎりぞ四人持ちたまへる。大君は内の女御、中の君は春宮の女御、三、四の君はただにておはするを、並べて見まほしう **y**思すべし。禄ども、贈物など、 **B**さらに世になききよらを尽くしたまへり。冠は童より得たまへり **III**しかば、大夫の君ときこゆ。

やがて、その秋の司召しに侍従になりたまひぬ。帝、春宮をはじめたてまつりて、天の下の男女、この君を一目見きこえては飽く世なくいみじきものに思ふべかめり。思し時めかさせたまふさま、やむことなき人の御子といひながら、いと類なきもことわりと見えて、琴笛の音にも、作り出づる文の方にも歌の道にも、はかなく引きわたす筆のあやつりまで、世に類なく、うち振る舞ひ交じらひたまへるさまのうつくしき、容貌はさるものにて、今よりあるべきさまにむべむべしく、世の有様、公事を悟り知りたることのさかしく、すべて事ごとに、この世のものにもあら **IV**ぬを、父大殿も、 **C**さはいかがせむ、さるべきにこそと、言ふかひなければ、今はやうやうかかる方につけてもうれしくうつくしきことをのみ思し慰みゆく。

(注)

- 1 内——ここでは、帝のこと。
- 2 かかる筋——ここでは、娘を男として出仕させること。
- 3 東の上——東の対に住む姫君（男）の母。
- 4 次殿——姫君（男）の祖父。
- 5 疎々しからぬはねぢけたれど——裳着（女子成人の儀式）における腰結は、通常、身内以外の地位ある人に依頼するが、ここでは姫君（男）の祖父がこれを行ったことを踏まえた表現。
- 6 御引き入れ——元服する男児に冠をつける役。
- 7 御上げまさり——元服して髪を結い上げた容姿が、童姿のときよりもすぐれていること。

問 1

「aなる」、「bじ」、「cめ」、「dし」の助動詞の本文中における意味として最も適当なものを、次の中からそれぞれ一つずつ選びなさい。解答番号は 1 ～ 4。

「aなる」	1	① 意志	② 存続	③ 断定	④ 伝聞	⑤ 詠嘆
「bじ」	2	① 打消	② 打消意志	③ 打消推量	④ 強意	⑤ 不可能
「cめ」	3	① 意志	② 推量	③ 仮定	④ 可能	⑤ 婉曲
「dし」	4	① 過去	② 完了	③ 希望	④ 願望	⑤ 詠嘆

問 2

□ で囲んだ活用語 I ～ IV の本文における活用形として最も適当なものを、あとの①～⑥の中からそれぞれ一つずつ選びなさい。なお、同じものを重ねて用いても構わない。解答番号は 5 ～ 8。

I	あれ	5	II	せ	6	III	しか	7	IV	ぬ	8
①	未然形		②	連用形		③	終止形		④	連体形	
			⑤	已然形		⑥	命令形				

問3

「アいはげなきさま」、「イひたぶるに」、「ウかたはらいたく」の本文中における意味として最も適当なものを、次の中からそれぞれ一つずつ選びなさい。解答番号は **9** ～ **11**。

「アいはげなきさま」 **9**

- ① 悪びれた様子
- ② 意気地がない様子
- ③ あどけない様子
- ④ おとなしい様子
- ⑤ おとなびている様子

「イひたぶるに」 **10**

- ① 真っ直ぐに
- ② 性急に
- ③ 強引に
- ④ 一途に
- ⑤ むやみに

「ウかたはらいたく」 **11**

- ① きまりが悪く
- ② 欠陥を生じ
- ③ 笑止千万で
- ④ 傍若無人に
- ⑤ 馬鹿らしく

問4

「A殿上などもせさせず交じろはせぬことと、つきせずゆかしがらせたまひて」の現代語訳として最も適当なものを、次の中から一つ選びなさい。解答番号は **12**。

- ① 殿上の間昇ることもさせないで仲間に入れなかったとは、いつまでも変わることもなく落ち着きなさって
- ② 殿上の間での作法見習いなどもさせず他人と交際させないでいたとは、このうえもなく知りたがりなさって
- ③ 宮中にも出仕させないまま人前に出て交際もしないでいたとは、しみじみと感慨深く思われて
- ④ 宮中での奉仕のみならず男女人間の交際もさせないでいたとは、ぜひとも会いたいとお思いになつて
- ⑤ 宮中での行儀見習いなどもさせず帝と目を合わすこともないため、気に入らないことだと立腹なさって

問5

「B さびに世になききよらを尽くしたまへり」の現代語訳として最も適当なものを、次の中から一つ選びなさい。解答番号は13。

- ① この世にまたとないほどの豪華を極めなされた。
- ② この世に例えようのないほどのきらびやかさを極めなされた。
- ③ まったくこの世に比類がないほどの調度品を整えなされた。
- ④ 重ねてこの世にないほどの贅沢品を出し切りなされた。
- ⑤ その上この世に存在しないほど極限の状態に到達しなされた。

問6

「C さはいかがせむ、さるべきにこそと、言ふかひなければ」とあるが、ここにおける「父大殿」（姫君の父）の説明として最も適当なものを、次の中から一つ選びなさい。解答番号は14。

- ① 嘆いてもどうしようもないが、世間の人を欺き若君と姫君を入れ替えて出仕させ続けるにはどうしたらよいのか、と知っている。
- ② 言っても仕方がないことだが、男装の姫君が秋の司召して侍従になれたものどうしたらよいか、そうなる宿縁であった、と知っている。
- ③ とやかく言っても始まらないが、男装の姫君が学問の道で並ぶ物なく格式ばっているのを、そうなるはずである、と知っている。
- ④ 言うだけの値打ちもないことだが、世間の人が男装の姫君を一目見て比類なくすばらしいと褒めるのをどうしたらよいのか、と知っている。
- ⑤ 嘆いても仕方がないことだが、男装の姫君がこれほど万事に優れているからには男として生きる運命を受け入れるしかない、と知っている。

問7 「x 参らす」、 「y 思す」の敬語は、誰に対する敬意を表しているか。それぞれの敬意の対象として最も適当なものを次の中からそれぞれ一つずつ選びなさい。解答番号は **15** ～ **16**。

- |                 |           |        |        |        |       |      |
|-----------------|-----------|--------|--------|--------|-------|------|
| 「 <u>x</u> 参らす」 | <b>15</b> | ① 内(帝) | ② 大将殿  | ③ 大殿   | ④ 若君  | ⑤ 姫君 |
| 「 <u>y</u> 思す」  | <b>16</b> | ① 春宮   | ② 右大臣殿 | ③ 内(帝) | ④ 大将殿 | ⑤ 若君 |

問8 本文の内容に**合致しないもの**を、次の中から一つ選びなさい。解答番号は **17**。

- ① 若君の学識や器量が優れていることが宮中をはじめ世間の評判になっていた。
- ② 大将殿の縁者ではない人は、若君と姫君を思い違えて聞き間違っていたと思った。
- ③ 童が五位の位を示す冠を若君に渡したことから、若君を「大夫の君」と呼ぶようになった。
- ④ 帝が若君を寵愛ちようあいなさる様子も高貴な家柄の子で当然とはいうものの、他に例を見ないことであった。
- ⑤ 若君は世情や政務を熟知し聡明で、何事につけても常人離れしていた。

問9 『とりかへばや物語』と同じ時代に書かれ、同じジャンル(区分)に属する作品を、次の中から一つ選びなさい。解答番号は **18**。

- ① 宇治拾遺物語
- ② 平家物語
- ③ 栄花物語
- ④ 堤中納言物語
- ⑤ 大和物語



二 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

**a** 荒涼たる被災地の風景は、<sup>(注)</sup>三月一日午後二時四六分直後の出来事に対する想像力を超越してしまう。東日本大震災は子どもたちや教師たちにも甚大な被害をもたらした。四月二日時点で文部科学省が掌握した被害の実態は、死者五二二人(岩手七〇、宮城三八〇、福島七〇、東京二、行方不明は岩手七〇、宮城一三四、福島三二)、負傷者二三四人であり、幼稚園から大学までの校舎など一万二九四の文教施設に流失、全焼、倒壊、半倒壊、外壁の亀裂などの被害が発生した。**A** 三月二七日時点で一七五一校が休校措置をとり、四一五校が地域住民の避難先となった。他の都道府県の公立学校において受け入れられた被災地の子ども数は八九四三人にのぼった(四月一五日時点)。唯一の幸いは、地震の発生が午後三時前という時間帯であったため、ほとんどの子どもが学校にいたことだろう。もし修学時間帯以外の時間であったなら、学齢児童や学生の死者は数千人に達していただろう。それでも、津波に襲われた宮城県石巻市では、園児一五人、児童六三人、生徒一八人、学生四人、教師一人が一瞬のうちに命を失った。

二万五〇〇〇人の死者と行方不明者を出した震災と同時に起こったのが、福島第一原子力発電所の事故である。震災は観測史上世界四番目の規模であったが、福島原発の放射能汚染もチェルノブイリに匹敵する原子力史上最大規模の惨事を引き起こし、その収束のめどは未だについていない。そのため、人々の関心が原発事故に向けられ、亡くなられた人々の鎮魂がおろそかになっているのではないか懸念される。**B** 死者の鎮魂を怠った社会に未来はない。

この鎮魂から再建の過程において、教育にできることは何なのだろうか。**X** 教育がすべきことは何なのだろうか。緊急にすべきことと長期的にすべきことの二つに分けて述べておきたい。

被災した子ども、災害によって家族を失った子どもへの心のケアがまず必要である。さらに子どもたちにとっても大切なケアは、安心して学び合える学校生活であり、苦難をこえ共に生きる友達や大人との連帯である。被災地の学校は多くが避難所となり、人的にも物的にも厳しい状況が続いている。災害対策基本法、原子力災害対策特別措置法、その他の特別立法による財政的・人的支援の政策化を行い、破損した校舎や施設の補修、給食費や教材費の補助、保育所や幼稚園などの経費補助が迅速に行われる必要がある。

四月末現在、文部科学省は被災地四県の学校への三八三人の<sup>(注)</sup>加配教員を決定した。しかし、この加配教員の数は決定的に不足しており、現実には全国からのボランティア教員で対応しているのが実態であり、ボランティア教員を出した学校への対応はなされてい

ない。現状に即した加配教員の予算化は急務である。

**Y** 被災地の学生、高校生の就学に対する援助として、特別の奨学金を準備することも検討されるべきである。被災によって就学や進学を断念し教育の機会を失う事態は避けなければならない。

防災教育のさらなる遂行も重要である。今回の震災では、どの学校においても、防災教育が有効に機能し、被害を最小限にいくとめることができた。学校によっては震災一週間前に大津波を想定した防災訓練を行い、児童全員がいち早く高台に避難したところもあった。しかし、今回の世界最大規模の地震では一年近く震度七程度の余震が起こる可能性がある。津波の恐怖は誰にも自覚されたが、津波のメカニズムや避難の方法など、さらに徹底した防災教育を被災地以外でも施す必要がある。

子どもに対する放射能被害については、十分すぎるほどの対策が必要である。原子力安全委員会が提示した校舎・校庭等の利用判断の<sup>(注3)</sup>年間二〇ミリシーベルトという基準は、国際的にみても異様に高い数値であり、放射能関連に従事する者でもこれだけの放射線量を被曝<sup>ばく</sup>する人は希<sup>け</sup>有と言われる。早急に、基準の見直しが必要である。そのうえで放射能汚染の測定を厳密にすると同時に、福島近辺の子どもに対しては少なくとも向こう一〇年間の放射能被害に対応する健康診断を定期的に施す必要がある。

放射能に対する防災教育も喫緊の課題である。放射能災害は目に見えない被害であり、何世代にもわたって生命の危機を引き起こす危険がある。これまで、放射能に対する防災教育は学校において一度も行われたことがなかった。それどころか、教科書を含めて原子力発電は安全でクリーンなエネルギーとして教えられてきた。今回の事故は、五四基もの原子力発電プラントを有する日本列島の危険な状況を再認識させた。**C** 放射能被害に対する防災教育は、地震の防災教育と同様、十全に行われるべきであった。原発事故と放射能被害に対する基礎知識の教育、外部被曝と内部被曝から身を守る方法など、どのような事態が起こっても冷静かつ迅速に対応できるよう、科学的知識と防衛の行動について、すべての子どもを対象に教育することが必要である。文部科学省は、早急に原発事故と放射能被害に関する研修を全国の教師全員に実施しなければならない。

今回の震災からの復興は、戦後直後の復興を想起させる。戦後復興において教育が主導的役割を演じたように、この震災の復興においても教育の使命と責務は大きい。戦後復興において教育が主導的役割を担えたのは、何よりも「平和で民主的で文化的な国家の建設」という復興の理念が明確であったからである。しかし、これまでの復旧と復興の経緯をみる限り、政府も世論も復興の理念をいっこうに明確にしてはいない。

私がつもつとも危惧しているのは、現状では復旧にとどまり、復興と再建の **b** ヴィジョン が形成されていないことにある。被災地とな

った地域は、いずれも経済力は弱く人口の減少と高齢化が進んでいた地域である。復旧の施策だけでは、被災地域はますます衰退し廃墟になる可能性がある。この地域にどのようなようにして経済的、社会的、文化的活力をよみがえらせることができるのか。その理念とヴィジョンが問われている。

復興は長期的展望によって遂行される必要がある。短期的復興においては産業や経済や行政の復興が急務だろう。しかし、長期的復興を射程に入れば、教育による復興がそれ以上に重要である。教育による復興において何より重要なのは、復興と再建のヴィジョンであり、その理念と哲学である。

教育による復興のヴィジョンと理念は、被災地にとどまらず日本社会全体の将来に連なるものとして検討されなければならない。歴史的な大惨事を経験した私たちが推進すべき教育の基本理念は「持続可能性 (Sustainability)」に求められるべきだろう。

「持続可能性の教育」については、これまで多くの人々が語ってきたし、グローバル教育において明確化されてきた。しかし、大震災と原発事故を経験するまで、日本においては「持続可能性の教育」は数多くの教育課題の一つと見なされ、教育の中核的な理念としては認識されてこなかった。そのことが、史上最悪規模の放射能汚染を引き起こし、ヴィジョンなき復興という混迷を生み出している。この現状を打開するために、「持続可能性」を社会と教育の構成原理とする議論を本格的に始めなければならない。

復興は再建に結びつけるべきであって、復旧に終わらせてはならない。大震災と原発事故の被害総額はおよそ二五兆円と言われている。今後、その相当額の規模の政策と事業が展開されることになるが、その政策と事業が持続可能な社会と教育の建設へと収斂されない限り、**D**それらは対症療法的な支出となり、次世代の子どもにも大変な負債を背負わせることになる。逆に、それらの政策と事業が一人ひとりの幸福を実現し持続可能な社会と教育の建設に向けられるならば、これまでの弱さやゆがみを克服した美しい自然と活気ある産業と豊かな文化に恵まれた日本社会の創造を準備するものとなるだろう。

被災地の人々をもっとも励ましているのは子どもたちの笑顔であり、<sup>かな</sup>哀しみを乗り越えて生きている子どもたちの姿である。その笑顔を明日の希望へとつなげる教育を探求することは、復興を担う私たち大人の最大の責務である。**C**

(佐藤学「教育にできること、教育ですべきこと」、内橋克人編『大震災のなかで 私たちは何をすべきか』による)

(注) 1 三月一日午後二時四六分——二〇一一年(平成二三年)、東日本大震災が発生した。後の警察庁まとめでは、一二都

道府県で一万八四二五名の死者・行方不明者が生じたが（震災関連死を除く）、被害の正確な把握には時間を要した。

2 加配教員——定数以上に配置された教員。公立学校教員の定数は、児童生徒の数に応じ国が決めている。

3 年間二〇ミリシーベルトという基準——放射線を体を受けると、少量なら遺伝子（DNA）のもつ修復機能で回復するが、一度に多量だと多様な症状が現れる。そこで日本では線量限度を国が定めている（平時の公衆は年間一ミリシーベルト以下、原子力や放射線の作業者は年間五〇ミリシーベルト以下かつ五年間で一〇〇ミリシーベルト以下、事故収束後の汚染下では年間一〜二〇ミリシーベルト以下、回復すべき長期的な目標は年間一ミリシーベルト以下、等）。国際放射線防護委員会（ICRP）は、緊急時の放射線防護の基準値を、年間二〇〜一〇〇ミリシーベルトとしている。

問 1

X

Y

に入る言葉として最も適当なものを、次の中からそれぞれ一つずつ選びなさい。解答番号は **19** ～ **20**。

X

19

- ① しかし
- ② そして
- ③ だから
- ④ ちなみに
- ⑤ ところで

Y

20

- ① あるいは
- ② しかるに
- ③ さらに
- ④ ただし
- ⑤ それゆえ

問 2

波線部 a ～ c の本文中での意味として最も適当なものを、次の中からそれぞれ一つずつ選びなさい。解答番号は **21** ～ **23**。

「a 荒涼」

21

- ① 建物や自然が損なわれてものさびしいこと
- ② 注意を欠き、うっかりすること
- ③ 口にまかせて大言を吐くこと
- ④ 自然の無慈悲な振る舞いが伝わってくるさま
- ⑤ 寒風が吹きすさび冷気が草木を枯らすさま

「b ヴァイジヨン」

22

- ① 感覚的に得る幻影
- ② リアルな視覚
- ③ 共有すべき未来像
- ④ 先々を占う洞察力
- ⑤ 綿密な計画性

「c 収斂」

23

- ① 穀物などを取り収めること
- ② 租税などを取り立てること
- ③ 異なるものの性質が似てくるさま
- ④ 引き締まり、縮んでいくさま
- ⑤ 多くのものが一つに集約されていくこと

問3

「A 三月二十七日時点で一七五一校が休校措置をとり、四一五校が地域住民の避難先となった。他の都道府県の公立学校において

受け入れられた被災地の子どもの数は八九四三人にのぼった(四月一五日時点)」とあるが、ここに記された日付から読み取れる事柄は何か。その説明として最も適当なものを、次の中から一つ選びなさい。解答番号は 24。

- ① 二〇一一年三月二十七日に筆者が原稿を書き終え、四月一五日に出版された。
- ② 二〇一一年三月二十七日時点の情報に基づいて、四月一五日までに筆者が既に原稿を書き終えていた。
- ③ 二〇一一年三月二十七日時点の情報に基づいて、四月一五日のうちに筆者が原稿を書き終えた。
- ④ 二〇一一年三月二十七日と四月一五日の両時点の情報を踏まえ、四月一五日からそう遠くないうちに筆者が原稿を書き終えた。
- ⑤ 二〇一一年三月二十七日と四月一五日の両時点の情報を踏まえて筆者が原稿を書き終え、四月中には書籍の印刷が始まった。

#### 問4

「B 死者の鎮魂を怠った社会に未来はない」とはどういうことか。その説明として最も適当なものを、次の中から一つ選びなさい。解答番号は 25。

- ① 自分は運よく死を免れたものの、これから日本で生き抜くのに原発事故の悪影響は計り知れないがゆえに、生存者たちが不安な中で原発事故にどうしても目を奪われ、死者の魂をしずめなくさめ冥福を祈ることがおろそかなままであっては、未来の社会建設へ向かっていつまでも歩み出せない、ということ。
- ② 命を落としたのは自分だったかもしれないことに誰もが気づき、死者の冥福を祈って、不慮の天災や事故で理不尽にも亡くなった人々の無念に思いをめぐらすことをせずして、天災や事故から教訓を導き出し、予想しづらいことをも想定する努力によって未来の被害を最小限に減らそうとする人命尊重の社会はどうてい築けない、ということ。
- ③ 福島第一原子力発電所の事故は原子力史上最大規模の惨事であり、誰もがその事故に関心を向けざるをえないのは仕方ないことであるが、だからといって、死者の存在を忘れ、死者の魂をしずめなくさめ冥福を祈ることが忘れられているようであっては、不慮の天災や事故で命を落とした人々の無念は果たせない、ということ。
- ④ 死者の冥福を祈り死者の魂をしずめなくさめる祭事をいかげんに執り行うようなことであっては、自分たちがたまたま生き延びられた幸運や縁すらもそのうちすぐ忘れるであろうから、貴重な人生の運をそのうち使い果たして、未来社会に生きることができなくなるであろう、ということ。
- ⑤ 事故後の報道が福島原発の放射能汚染に集中するあまり、亡くなった人々の状況やその原因の解明ならびに分析が十分に行われなかったり報じられなかったりしているため、こういった状態が改善されないまま長引けば、今回の震災から教訓が得られず、未来社会の建設にもおのずと支障が出てくるだろう、ということ。

問5

「C 放射能被害に対する防災教育は、地震の防災教育と同様、十全に行われるべきであった」とあるが、筆者がこのように言うのはなぜか。その説明として最も適当なものを、次の中から一つ選びなさい。解答番号は **26**。

- ① 東日本大震災による原子力災害は、国民が原発事故と放射能被害に対する基礎知識に乏しく、外部被曝と内部被曝から身を守る方法などについて、冷静かつ迅速に対応できずパニックに陥っていたため、火山国日本でこれまで地震の防災教育が実績を上げてきた手法にならない、もっと早期から学校で教育しておくべきであった、と筆者は考えるから。
- ② 原子力発電が安全でクリーンなエネルギーだとは学校で教えられていたが、原発事故と放射能被害に対する基礎知識の教育、外部被曝と内部被曝から身を守る方法など、科学的知識と防御の行動については、まだ学校教育で扱っておらず、その原因は、文科省が原発事故と放射能被害に関する研修を全国の教師全員に実施してこなかった長年の怠慢にある、と筆者は考えるから。
- ③ 原子力発電は安全でクリーンなエネルギーとして教えられてきたが、安全を守るには安全管理の意識が重要であり、日本の原子力教育は原子力発電の安全管理の方法論に偏ってきた傾向があるため、東日本大震災を機に教育のあり方を見直し、できれば以前から、放射能被害の防災教育も行うべきであったが、せめてこれから振興していくべきだ、と筆者は考えるから。
- ④ 放射能被害は目に見えず、何世代にもわたって生命の危機を引き起こす恐れがあるのだから、原子力発電が仮に安全でも事故がひとたび起これば被害が深刻化しやすいため、火山国日本に地震の防災教育が必要不可欠であるのと同様、日本で原子力発電が常時多数行われている以上、放射能被害の防災教育も必要不可欠で十分に振興されるべきであった、と筆者は考えるから。
- ⑤ 原子力発電は二酸化炭素を出さず地球温暖化にメリットがあるため、安全でクリーンなエネルギーとして将来にわたって日本に必須のものであるから、火山国日本に地震の防災教育が必要不可欠であるのと同様、放射能被害の防災教育も日本に欠かせないものであるという認識をもって、防災教育が十分に振興されるべきであった、と筆者は考えるから。

問6

「D それらは対症療法的な支出となり、次世代の子どもに大変な負債を背負わせることになる」とあるが、それはなぜか。その説明として最も適当なものを、次の中から一つ選びなさい。解答番号は 27。

- ① 東日本大震災の被災地は、経済力が弱く人口の減少と高齢化が進んでいた地域ではあるが、グローバル教育の中で、例えばインバウンド（外国客や外国需要の誘致・呼び込み）に注力して経済的、社会的、文化的活力の復興と再建を図ることにより、経済発展と人口増は展望できうるはずであり、そういった長期の戦略がないままに多額の資金を投じて短期的な産業、経済、行政の復旧にこだわっていると、経済が冷え込み投資を回収できなくなると見通されるから。
- ② 東日本大震災の被災地は、経済力が弱く人口の減少と高齢化が進んでいた地域ではあるが、SDGsの一環として、まずはエコツーリズムと震災遺構ガイドに集中して経済的、社会的、文化的活力の復興と再建を図ることにより、集客と産業構造の転換は実現できうるはずであり、そういった長期の方針がないままに多額の資金を投じて短期的な産業、経済、行政の復旧にこだわっていると、やがて少子化によって地域の経済の担い手が不足すると見通されるから。
- ③ 東日本大震災の被災地は、経済力が弱く人口の減少と高齢化が進んでいた地域である一方で、豊かな自然や風土が多く残されてきた地域でもあるため、例えば一次産業に二次・三次産業を組み合わせ付加価値を高めるなど、地域の魅力を経済に変換する仕組み作りに投資を重点特化して経済的、社会的、文化的活力の復興を図ることにより、民間活力だけでも東北の再建は十分可能であり、そういった長期の見立てがないままに多額の公金を投じて短期的な産業、経済、行政の復旧にこだわっていると、やがて公債の利払いが膨らみ、政府による財政支援が必要になることが見通されるから。
- ④ 東日本大震災の被災地は、経済力が弱く人口の減少と高齢化が進んでいた地域なので、地産地消やフード・マイルージ、あるいはコンパクト・シティなど、これまで大きくなりすぎてきた暮らしを見直すことによって経済的、社会的、文化的活力の復興を図れば、国債や公債の発行残高はもっと圧縮できるはずであり、それを実行しないまま、多額の公金に頼って短期的に産業、経済、行政の復旧を進めると、やがて税収不足で行政を運営できなくなっていくと見通されるから。
- ⑤ 東日本大震災の被災地は、経済力が弱く人口の減少と高齢化が進んでいた地域なので、「持続可能性」のある社会と教育を念頭に置きながら経済的、社会的、文化的活力の復興と再建を長期に展望していかない限り、政策的に多額の資金を投じることで短期的に産業、経済、行政の復旧はできても、その維持が難しく、やがて減っていく次世代の子どもに資金返済の負担が一層重くのしかかってくるが見通されるから。



問7

に入る言葉として文脈上最も適当なものを、次の中から一つ選びなさい。解答番号は

28。

- ① 前世代の日本社会が生んだ原子力発電こそが、再建を急ぐべき課題である
- ② 旧世代の大人の負債を子どもにつけ回さないこそが、大人の目標である
- ③ 被災地の人々の教育環境を整えるこそが、復旧のかなめである
- ④ 次世代の子どもの未来を開くこそが、復興の中心である
- ⑤ 活気ある産業と豊かな文化を起こすこそが、日本社会創造の姿である

三

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

私には少年の頃から自分の家も家庭もない。学校の休暇に郷国へ帰省した時は親戚に寄食する。多くの縁者の家から家へ渡り歩く。しかし休暇の大部分は私に最も近い二軒の家で過ごすのが習わしである。その二軒は淀川の南と北で、(註)河内の国の町と摂津の国の田舎村とである。私は渡船で往来する。そのどちらへ行っても「お越しやす」と迎えられる。

A 二十二歳の夏休み、三十日足らずの間に私は三度葬式に参列した。そのたびごとに亡父の紹の羽織袴などを着けて白足袋を履き数珠を持った。

最初に河内の家の分家から葬式が出た。当主の実母が亡くなったのだった。孫が三十にもなろうという高齢だったし、長い患いで手を尽した看護を受けたし、要するに心残りのない極楽往生と言ってもよかった。a 悄然とした当主の様子や孫娘たちの薄赤らんだ臉なぞを目のあたり眺めると、その人たちの悲しみは私にも伝わって来た。X 直接に亡くなった人を偲びその死を悼む心はなかった。仏前に焼香しても棺の中の人の顔を私は知らないのである。そんな人がいることも常々忘れていた。

出棺前に礼装の私は数珠と扇とを持って、摂津から来た従兄と連れ立って弔間に行った。若い私の一挙一動の方が従兄に較べて格段と落着き礼式に適っていた。楽々と役をつとめていた。従兄は少し驚いて私を眺め私の真似をした。本家にはいとこたちが五、六人集って沈んだ顔を見せている必要はなかった。

一週間ほどして、摂津の従兄から河内の家の私へ電話があった。姉が嫁入っている家の分家に葬式があるが、あなたも行かなければならないというのだった。以前私の家の葬式にその家から来てくれたのだそうである。私は摂津の従兄と一緒に伴を連れて汽車で行った。その家へ弔間に行っても喪主の外はどれが家族だか見当もつかなかった。誰が死んだのかも私は知らなかった。従姉の家は会葬者の休憩所になっていたが、従姉の家の親戚は座敷が別だった。その座敷では亡くなった人の話をする者がなかった。皆が皆暑気と出棺の時間を気にしているばかりだった。時々、誰が死んだのだとか、行年何歳だとかの問いが出た。私は碁を打ち続けて出棺を待っていた。

その後、再び河内の家へ摂津の従兄が勤先から電話をかけて来た。姉の嫁入先の極遠縁の葬式に代参をしてくれというのである。葬式のある家も村名も墓の在場も従兄さえ知らなかった。話の間に従兄は冗談を言った。

「B あんた、葬式の名人やさかい。」

私はふと黙った。私がどんな顔をしたか、電話だから従兄には分らない。私は家人に三度目の葬式に行つて来ると言った。葬式屋のようだと、この家の従兄の若い細君は苦笑していた。縫物をしていた従妹は私の顔を眺めていた。その晩は摂津の家へ泊り翌朝そこから出かけることにして私は淀川を渡った。

### ( 中 略 )

その夏の三人の死人は皆生前その顔も知らなかった。直接な悲しみは感じようがなかったが、墓場で焼香する時だけは雑念を払つて死者の冥福を静かに念じた。若い人の中には両手を垂れたまま頭を下げて焼香するのが少くないのを見ていても、私は合掌する。そして多くの場合、死人と縁故の薄い会葬者たちよりも私の心は敬虔であるように思われる。そうあり得るのは葬式の情景に刺戟されて私に親しい亡き人々の存命中や臨終や葬式の日を思い出すからである。また反対に思い出すことによつて私の心は自然に静かになる。そして生前私に縁遠い人の葬式であればあるだけ、私は自分の記憶と連れ立って墓場に行き、記憶に對つて合掌しながら焼香するような気持になる。だから少年の私が見も知らぬ人の葬式にその場にふさわしい表情をしていたにしても伴りでなく、身に負うている寂しさの機を得ての表れである。

私は父母の葬式については何の記憶も持っていない。存命中のことも少しも覚えていない。父母を忘れるな、思い出せと人々が私に言う。思い出すにも思い出しようがない。写真を見ると、絵姿でもなし生きた人間でもなしその中間のもの、肉親でもなし他人でもなしその中間のもの、という気がして変な圧迫を感じ、写真と私とが顔を見合っているのがお互に恥しい。人から父母の話がされてもどういふ心持で聞いていけばいいのかに迷つて早く切り上げて欲しいとばかり思う。命日や行年を教えられても電車の番号と同じく直ぐ忘れる。父の葬式の日には仏前で鉦を叩くな、灯明を消せ、かわらけの油を庭に流してしまえと私が泣きむずかしたと伯母から聞いた。この話だけは不思議に私の心を打った。

### ( 中 略 )

祖母の葬式は私が小学校に入学した年であった。祖父と二人で虚弱な私を育てていた祖母は孫を学校に入れたという軽い気の弛みで死んだのだ。葬式の日には豪雨で私は家の出入りの男に負われて墓へ行った。白衣を着た十一、二の姉がやはり男に負われて私の前に

赤土の山道を登って行った。

祖母の死によって初めて私は自分の家の仏壇に対して生きた感情を持つようになった。閉め切った仏間の襖ふすまを祖父の見ていない時を選んで外から極細目に開けては閉めたまま開けては倦むうことを知らずに灯明の明るい仏壇を偷視ぬすみして時を過したすぎ。しかし襖を開き切って仏壇に近づくことは嫌がったのを覚えている。平地からは日光が退いて山や峠の頂だけを染めている静かな明るい西日の色を仰ぐと、なぜか私はいつも八歳の時の仏壇の灯明の色を聯想する。仏間の白い襖注2に尋常一年らしい片仮名で祖母の長つたらしい戒名を落書したのが、家を売る頃までそのまま残っていた。

男の背の姉の姿はただ白い喪服だけしか後年思い浮べられなかった。その白衣に頭と手足をつけようと瞑目めいもくして努めると赤土道と雨が次第にはっきりして来るだけで、思い通りにならないので焦立いらだたしくなる。負うていた男の後姿も浮うかんで来ない。Y この宙に浮んだふわりと白いもの、これが姉に関する私の記憶の総すべてである。

姉は私が四、五歳の頃から親戚の家に育てられそこで私が十一、二の年に死んだ。私は父母の味と同じく姉の味を知らない。祖父は姉の死を悲しめ、悲しめと私に強要した。私は自分の心の中を捜さがしてみたが、どの感情を何物に託して悲しみを感ぜたらいいかに迷った。ただ老弱な祖父の哀傷極まった姿が私の心を刺し貫いた。私の感情は祖父に走り寄りそこに止まったままで祖父を越えて更に姉の方へ行こうとはしなかった。祖父は注3易学に通じ占断の術に長じていた。目を患って晩年は盲目に近かった。姉危篤と聞き静かに篋せいちく竹を数えて孫の命を占った。視力の衰えた老人を手伝って注4算木を並べてやりながら、だんだん暗くなる老顔を私はじつと見ていた。それから二、三日後姉の死の報しらせを祖父に告げるに忍びないで手紙を二、三時間隠してしてから決心して読んで聞かせた。普通の漢字はその頃私に読めた。草書で分らない字は祖父の手をとってその掌てのひらに私の指で幾度も書いてみて読む習わしだった。その手紙を読む時に握った祖父の手から受けた感触を思うと、今でも私の左の掌は冷え冷えとする。

注5 昭憲皇太后の御大葬の夜に祖父が死んだ。私の十六歳の夏である。祖父は息を引き取る前に痰が気管につまって胸を掻かきむしるようにして苦しんだ。仏様のような方だのに往生際にどうしてこうお苦しみになるのかと、枕辺にいた一人の老婆が言った。その苦しみを正視していられないので私は一時間足らず別室に逃げていた。ただ一人の肉親の私がそうしたのは薄情だと、ある従姉が一年ほど後に私を責めた。私は黙っていた。そう見られるのは尤もともだと思った。何事によらず我身の弁解をすることを少年時代の私は甚だ好まなかった。またC 老婆のあの言葉が私を手痛く傷きずけていたので死の近づいた枕辺を外した理由を一言でも説明するのは祖父の恥

を洗いざらすことだと思えた。そして従姉の言葉を受けて沈黙していた私に寄辺よるべない寂しさが急に自分の内へ内へと落ち込んで来た。ただ一人だという感じである。

葬式の日多くの会葬者から弔問を受けている最中に私は突然鼻血が鼻孔びこうを流れ下つて来るのを感じた。はつと帯の端で鼻を抑えて庭に裸足はだしのまま飛び出し敷石の上を走った。人目の届かない木蔭の高さ三尺位の大きい庭石の上に仰臥ぎようがして出血の止まるのを待った。檜かしのの老樹の葉の隙間すきまから眩まぶしい日光がこぼれ青空の細かいかけらが仰げた。鼻血が出たのは生うまれて初めてと言ってよかった。この鼻血が祖父の死から受けた私の心の痛みを私に教えた。家の混雑と唯一の家人である私がせねばならぬ人々への応対と葬式万端の用事に紛れて物思いの寸暇がなかったので、それまでは祖父の死そのものや我身の今後を落着いて考えなかった。自分は弱っていると思っていなかった。鼻血が私の気を挫くじいた。殆ほとんど無意識で飛び出したのは自分の弱い姿を見せたくなかったからだ。喪主の私が出棺近くにこの態ていでは皆にすまないし一騒よるべぎになると思ったからだ。庭石の上は祖父の死後三日目に初めて持った自身の静かな時間であった。その時ただ一人になったという寄辺よるべなさかばんやり心に湧わいた。

翌朝親戚や村の人六、七人と御骨拾いに行った。山の焼場には覆いがない。灰を掘り返すと下は一面火が残っていた。火気を受けて暫しばらく骨を拾っていると、再び鼻血が出て来た。竹火箸を投げ出して何か一言二言言うと帯を解いた尖さきで鼻を抑えいきなり山へ一散に駆け登った。頂上まで走った。前日と違ってどうしても血が止まらなかった。帯の長さの半ば以上と手とが血だらけになり草の葉にほとほと落ちた。静かに仰臥すると麓ふもとに池が見下せた。水面に躍っている朝日が遥はるかな私に照り返って眩暈めまいを催させるのであるような気がした。眼に衰えを感じた。三十分ほどして遠くに声を合せて幾度も私を呼ぶのを聞いた。黒だからいいもののひどく血で濡れている帯を気にしながら焼場に戻った。人々の眼は斉ひとしく私を咎とがめていた。御骨が見つかったから私に拾えと言うのだ。私はしらじらと寂しい心で小さい骨を拾った。湿りが乾いて硬くなった帯をその後ずつと身に巻いていた。二度の鼻血は誰にも知られずにすんだ。その後も決して人に言わない。肉親たちのことを私から口を切って人に語ったことも、人にたずねたことも今日までに一度もない。

私の育ったのは都会に遠い田舎だから、祖父の葬式には少し誇張すると全村五十軒が私を哀れんで泣いてくれた。葬列が村の中を行く時辻々に村人が立っていて棺の直ぐ前に進んだ私が前を通ると女たちが声をあげて泣き、可哀かわいそうに可哀かわいそうにと言うのがよく聞えた。私はただ恥しくて硬くなった。一つの辻を私が過ぎるとその辻の女たちが抜道を先廻りして次の辻でまた同じ泣声を繰返した。

幼少の頃から周囲の人々の同情が無理にも私を哀れなものに仕立てようとした。私の心の半ばは人々の心の恵みを素直に受け、半

ばは **c** 傲然と反撥した。

D 祖父の葬式以後も祖父の妹の葬式伯父の葬式恩師の葬式その他親しい人々の葬式は私を悲しませた。そして父の遺した礼装は従兄の婚礼に一度慶びの日に私を飾っただけで数え切れないほどの葬式の日に私を墓場に運んだ。遂に私を葬式の名人たらしめた。

(川端康成「葬式の名人」による)

(注) 1 河内の国・摂津の国——大阪府の東部と北部。

2 尋常一年——現在の小学校一年。

3 易学——中国を発祥とするものごとの吉凶を判断する占い。

4 算木——易学を行うときに用いる道具。

5 昭憲皇太后——明治天皇の皇后。一九一四年(大正三年)崩御。

問1 波線部 a～c の本文中における意味として最も適当なものを、次の中からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。解答番号

は **29** ～ **31**。

「a 悄然」

**29**

- ① 悲しみに沈んでいるさま
- ② しょげて投げやりなさま
- ③ うちしおれて元気のないさま
- ④ 暗くやる気を失っているさま
- ⑤ めげて自信のないさま

「b 敬虔」

**30**

- ① 宗教に深く帰依するさま
- ② 態度が非常に控えめであるさま
- ③ 動作がもの静かで上品であるさま
- ④ うやまいつつしむ気持ちの深いさま
- ⑤ 相手に対し低姿勢であるさま

「c 傲然」

**31**

- ① 人を見下し思いのままに振る舞うさま
- ② 威張って尊大に振る舞うさま
- ③ おごり高ぶって勝手に振る舞うさま
- ④ 偉そうにして他者を顧みないさま
- ⑤ 人を馬鹿にして偉そうに振る舞うさま

問2 空欄 X～Y に入る言葉として最も適当なものを、次の中からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。解答番号は **32** ～ **33**。

問3

「A 二十二歳の夏休み、三十日足らずの間に私は三度葬式に参列した」の説明として最も適当なものを、次の中から一つ選びなさい。解答番号は 34。

- |        |         |
|--------|---------|
| X      | ① また    |
| 32     | ② かりに   |
| ③ けれども | ④ どうしても |
| ⑤ ただ   |         |
- 
- |        |        |
|--------|--------|
| Y      | ① そのうえ |
| 33     | ② やがて  |
| ③ しだいに | ④ まして  |
| ⑤ そして  |        |

① 一回目は、「私」が学校の休暇で帰省する河内の家の分家の当主の実母の葬式である。二回目は、摂津の従兄から「私」の家の葬式に来てくれたことがあるからという理由で、従兄の姉の嫁ぎ先の葬式に行くことを求められた。三回目は、摂津の従兄の代参として、姉の嫁ぎ先の遠縁に当たる家の葬式に出かけた。

② 「私」が学校の休暇で帰省する河内の家の分家の葬式が一回目である。当主の実母の葬式であり、高齢であり極楽往生といえるものであった。二回目の葬式は、以前に「私」の家の葬式に来てくれたことから、摂津の従兄の姉の嫁ぎ先の分家の葬式に出かけた。三回目は、摂津の従兄に同道して、従兄の姉の嫁ぎ先の遠縁に当たる家の葬式に出かけた。

③ 「私」が帰省するのは、摂津と河内の家のどちらかであるが、一回目は河内の家の分家の葬式であった。当主の実母の葬式で、親しくはないものの見知らぬ人ではなかった。二回目は、摂津の従兄から、以前に「私」の家の葬式に来てくれたことがあるという理由で、従兄の姉の嫁ぎ先の分家の葬式に出かけ、三回目は従兄の姉の嫁ぎ先の遠縁に当たる家の葬式であった。

④ 一回目は、「私」が寄食する河内の家の分家の当主の実母が亡くなったの葬式である。二回目は、摂津の従兄の姉の嫁ぎ先の分家の葬式で、「私」の家の葬式に来てくれたことがあるからという理由で参列を求められ従兄と一緒に出向いた。三回目は、摂津の従兄の姉の嫁ぎ先の遠縁に当たる家の葬式で従兄の代参として出かけた。

⑤ 一回目は、「私」が寄食する河内の家の分家の当主の実母の葬式で、摂津の従兄と連れ立って弔間に出かけた。二回目は、摂津の従兄の姉の嫁ぎ先の分家の葬式で、以前に「私」の家の葬式に来てくれたことから、行くことを求められた。三回目は、摂津の従兄の姉の嫁ぎ先の葬式であり、摂津の従兄に代参を頼まれたのである。

問4 「B あんた、葬式の名人やさかい」と、なぜ従兄は「私」のことを冗談とはいいながらそのように評したのか、その説明として最も適当なものを、次の中から一つ選びなさい。解答番号は **35**。

- ① 「私」が葬式に慣れており、弔問における一挙一動が落ち着いてみえたことから、従兄は「私」が幼い時に父母を無くしこれまでにたくさん葬式を経験してきたことに気づき、沈んだ「私」の気持ちを慰めようと思ったから。
- ② 弔問における「私」の一挙一動が落ち着いてみえたことから、従兄は「私」が葬式に慣れていることに気づき、自分の代参で葬式に行ってもらうために、冗談で「私」のあり様を誉めておこうと思ったから。
- ③ これまでに従兄は「私」と二回葬式に行ったことがあるので、弔問における「私」の一挙一動が自分よりもはるかに落ち着いていることをよく知っており、葬式の代参を何とか了承してもらおうと思ったから。
- ④ 従兄は「私」と二回葬式に行ったことがあるので、弔問における「私」の一挙一動が自分よりもはるかに落ち着いていることを知っており、自分が行くよりもふさわしいと考えたから。
- ⑤ 従兄は「私」と二回葬式に行き、弔問における「私」の一挙一動が落ち着いていて、楽々とその役を務めているのを見たことから、自分よりもはるかに葬式に慣れていると思ったから。

問5 「C 老婆のあの言葉が私を手痛く傷けていた」とあるが、その説明として最も適当なものを、次の中から一つ選びなさい。解答番号は **36**。

- ① 「仏様のような方だのに往生際にどうしてこうお苦しみになるのか」という老婆の言葉は、祖父のこれまでの生き方や行状を非難することに繋がり、痰がつまって苦しんでいる原因が祖父の人間性にあることを結果的に老婆が指摘していることとなり、それ故「私」は老婆の言葉を許すことができなかった。
- ② 「仏様のような方だのに往生際にどうしてこうお苦しみになるのか」という老婆の言葉は、老婆自身に祖父を責めるような意図がないことを「私」自身は分かっているもの、現に痰を詰らせて苦しんでいる祖父を目の前を見ると、「私」には祖父の



これまでの生き方や行状を疑いたくなる感情が起こり耐えがたかった。

③ 「仏様のような方だのに往生際にどうしてこうお苦しみになるのか」という老婆の言葉は、老婆自身に祖父を責めたり貶めたりする意図がないことは分かっているものの、「私」には痰がつまって苦しんでいる原因が祖父の生き方や人間性にあることが否定できなくなり、苦しんでいる祖父を正視することができなかった。

④ 「仏様のような方だのに往生際にどうしてこうお苦しみになるのか」という老婆の言葉は、老婆自身に祖父を非難したり貶めたりする意図がないことは分かっているものの、痰がつまって苦しんでいる原因が祖父の人間性や生き方にあるように「私」には聞こえ、苦しんでいる祖父を正視することができなかった。

⑤ 「仏様のような方だのに往生際にどうしてこうお苦しみになるのか」という老婆の言葉は、目の前で痰がつまって苦しんでいる祖父のこれまでの生き方やあり方を否定するものとなり、老婆に対する許しがたい怒りとともに、痰がつまって苦しんでいる祖父の姿をまともに見ていることができなかった。

**問6** 「D 祖父の葬式以後も……遂に私を葬式の名人たらしめた」について、次の(1)と(2)の問いに対する**答えの組み合わせ**として最も適当なものを、あとの①～⑤の中から一つ選びなさい。解答番号は **37**。

(1) 最後に「葬式の名人たらしめた」とあるが、この述部に対応する主部は何か。  
(2) ここに用いられている二つの技法・表現は何か。

- |   |     |           |     |      |   |      |
|---|-----|-----------|-----|------|---|------|
| ① | (1) | 親しい人々の葬式は | (2) | 倒置法  | と | 擬人法  |
| ② | (1) | 親しい人々の葬式は | (2) | 使役表現 | と | 反復法  |
| ③ | (1) | 父の遺した礼装は  | (2) | 倒置法  | と | 使役表現 |
| ④ | (1) | 父の遺した礼装は  | (2) | 擬人法  | と | 使役表現 |
| ⑤ | (1) | 祖父の葬式     | (2) | 反復法  | と | 擬人法  |

問7 「私」の家庭や生育の環境を述べたものとして最も適当なものを、次の中から一つ選びなさい。解答番号は **38**。

① 「私」は父母を幼い時に亡くし、その後は親戚の家で育てられた。「私」に優しくしてくれたただ一人の姉とも別々のところで育てられたのだが、その姉は「私」が十一、二歳の時に死んでしまった。その後、「私」は祖父母の元で育てられたが、祖母は「私」が小学校に入学した年に死に、祖父が死んだのは十六歳の時であった。

② 「私」は父母を幼い時に亡くしたため、父母に関わる思い出を持っていない。「私」にとってただ一人の姉とも別々のところで育てられたのだが、その姉は「私」が八歳の時に死んでしまった。「私」は、祖父母の元で育てられたが、祖母は「私」が小学校に入学した年に死に、その後は唯一の肉親といえる祖父との二人暮らしである。

③ 「私」は父を幼い時に亡くし、母も幼い時にいなくなったため、父母にまつわる思い出を全く持つことなく育った。その上「私」にとってただ一人の姉とも別々のところで育てられた。その姉も早くに死んでしまったため、祖父母が「私」の最も身近な存在であったが、祖母は「私」が小学校に入学した年に死に、祖父が死んだのは十六歳の時であった。

④ 「私」は父母を幼い時に亡くし、父母にまつわる思い出を全く持つことなく育った。その上「私」にとってただ一人の姉とも別々のところで育てられたため、姉にまつわる思い出もほとんど持っていない。祖父母が「私」の最も身近な存在であったのだが、祖母は「私」が小学校に入学する直前に死に、祖父が死んだのは十六歳の時であった。

⑤ 「私」の父母は「私」が幼い時に死去し、ただ一人の姉とも別のところで育てられた。その姉とも十一、二歳の時に死別している。それゆえ、父母の思い出も姉との思い出もほとんど「私」の中には残っていない。祖父母の元で育てられ、祖母は「私」が小学校に入学した年に、祖父が死んだのは十六歳の時であった。

四

漢字・語句について、次の問いに答えなさい。

問 A～Hの各傍線部に相当する漢字を含むものはどれか。また、I～Jの空欄に入れるのに最も適当な語句はどれか。それぞれ一つずつ選びなさい。解答番号は **39** ～ **48**。

A 拙速はコウチにしかず。 **39**

- ① コウジ魔多し。
- ② 怪我のコウミョウ。
- ③ コウトウ無稽の言動。
- ④ コウゲン令色の人。
- ⑤ 一寸のコウイン軽んずべからず。

B 路地ではジョコウせよ。 **40**

- ① チツジョを維持する。
- ② ジョサイのない受け答え。
- ③ まな板をジョキンする。
- ④ 年次を追ってジョジュツする。
- ⑤ ジョジョに水位が上がる。

C 事件はメイキウ入りとなった。 **41**

- ① キウヨの一策。
- ② キウチの間柄。
- ③ ダキウが空に吸い込まれる。
- ④ ケンキウに心血を注ぐ。
- ⑤ オウキウの庭が一般公開される。

D 千里キウリヨウで万博が開かれた。 **42**

- ① キウエン物資を届ける。
- ② 河岸ダンキウを散策する。
- ③ コンキウ家庭を支援する。
- ④ 働いてキウヨを得る。
- ⑤ キウソク充電は電気自動車普及の鍵だ。

E アイカンを優勝選手に授ける。 43

① ラストシーンはアツカンだった。

② ゴカンの性のある部品。

③ 編集シユカンを務める。

④ 彼はゴカンが鋭い。

⑤ ジャツカン二十歳にして起業する。

F 琴をダンソウする。 44

① 軍が市民をダンアツする。

② 市民のソウダンに乗る。

③ ゲキダン出身の俳優。

④ 国交をダンゼツする。

⑤ 仕事が一ダンラクついた。

G 友人を自宅にトめる。 45

① 音楽の再生をテイシする。

② 物価の高騰をヨクシする。

③ 強盗容疑でリュウチされる。

④ ホシヤク金を積んで釈放される。

⑤ 西行はヒョウハクの歌人である。

H からまった糸をトく。 46

① ゲシの夜に月を眺める。

② ゲネツ剤を飲む。

③ ゲボクに荷物を運ばせた。

④ ゾウゲは貴重だ。

⑤ 神経ゲカの医師に診てもらおう。

I   回生の策を講じる。 47

① 雪辱

② 希念

③ 周遊

④ 巡行

⑤ 起死

J 捜査上の不正が   。 48

① 明らかに浮かぶ

② 明るくなる

③ 明るみになる

④ 明るみになる

⑤ 明るさを分ける

(問題 終わり)

（  
余  
白  
）